令和４年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立北小学校

１．本年度の全国学力・学習調査結果の学力の概要について

・対全国比の平均正答率は、どの教科も良好な結果でした。
・無解答率も全国平均と比べて低く、課題に対し粘り強く取り組むことができる姿がうかがえます。
・国語の調査では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」ともに良好な結果でした。これは本校の校内研修で国語の授業づくりに継続して取り組んできた結果であると思われます。
・算数の調査では、「図形」や「データの活用」について良好な結果でした。一方、「数と計算」の領域については課題がありました。
・理科の調査では、どの領域についても良好な結果でした。これは授業の中で ICT を積極的に活用したり、児童のふりかえりや疑問を大切にし、主体的に活動できる授業づくりに取り組んだりした結果であると考えます。

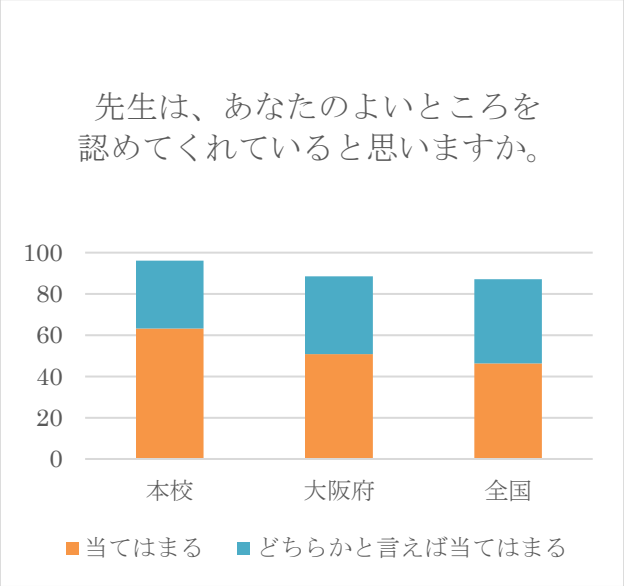
２．各教科における成果と課題について

	成　果	課　題
国語	・無解答率がかなり低く、粘り強く考えることができる児童が多くいました。これは、日々の授業でノートに考えを書く時間を取っている成果が表れていると考えられます。 ・「読むこと」の領域のうち、人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題や「話すこと・聞くこと」の領域の文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける問題において、考えを形成し、記述することができました。	・文章全体の構成や書き表し方などに着目して文や文章を整える問題に対して課題が見られます。 ・記述式の設問の中でも、「話すこと・聞くこと」の領域の互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題に課題があります。
算数	・無解答率が低く、粘り強く課題に取り組むことができています。 ・示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述したり、図形の意味や性質を基に、角の大きさに着目し、図形の構成の仕方について考察し、記述したりする課題の平均正答率が全国よりも高くなっています。日々の授業で、考えをノートに書く習慣をつけている成果だと考えられます。	・「数と計算」の領域において、被乗数に空位のある整数の乗法の計算をする問題や表された場面において、目的に合った数の処理の仕方を表現する問題では、全国の正答率を下回っていました。問題場面に応じた数の処理方法を考えることに課題が見られます。 ・「変化と関係」の領域において、百分率で表された割合を分数に表す問題に課題が見られます。

理科	・実験や観察に使う用具の理解についての問題の正答率が全国よりも高くなっています。授業の中で理科の用語の復習を継続して行っている成果だと考えられます。 ・日光は直進することや実験方法を検討し、改善して、自分の考えを持つことなど、「地球」を柱とする領域の正答率が高くなっています。	・自然の事物・現象から得た情報を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えを持ち、その内容を記述する問題に課題が見られました。普段の授業から、実験、観察の結果を話し合い、検証していく授業を実践していく必要があると考えます。

３．児童質問紙調査の結果の概要について（肯定的評価の割合）

〈取組みの成果があらわれている、または特徴的であると思われる事項について〉

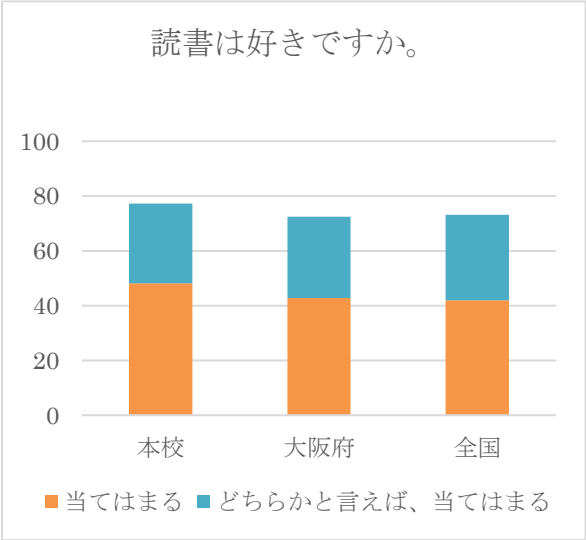


「先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか。」の設問では、大阪府や全国と比べて約８ポイント上回っていました。本校では、自己肯定感が高い児童の割合が例年低いことが課題であり、一人ひとりを認める声かけを意識的に続けているところです。

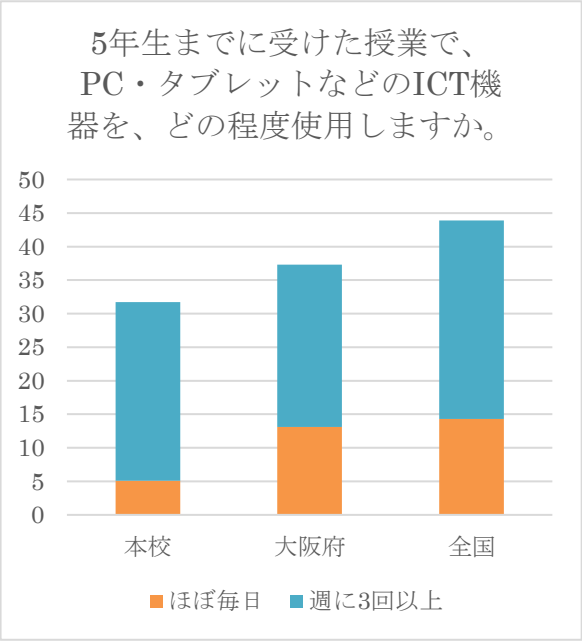
「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしています。」「人の役に立つ人間になりたい。」「考えをまとめる活動」「新しいものを創り出す活動」などの設問でも、当てはまると回答した児童が全国や大阪府を上回る結果でした。教職員の意識的な語りかけが、一人ひとりの自己有用感へとつながっていると思われます。

「読書はすきですか。」の設問では、当てはまる、どちらかと言えば当てはまると回答した児童が、大阪府や全国と比べて、約 5 ポイント上回っています。

本校では、図書館司書を中心に、「よん de パス」や学級文庫の充実、読書時間の読み聞かせなどに取り組んでいます。これらの活動は、保護者からも肯定的なご意見をいただいています。今後も継続して取り組んでいきたいと考えています。

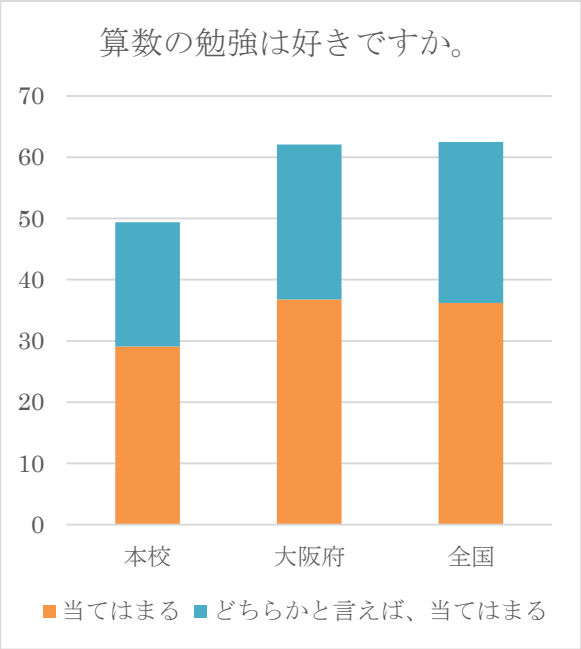


〈今後に向けて、課題と思われる事項について〉



タブレットに関する設問に対して、積極的に活用していると回答している割合は、大阪府、全国と比べて、大幅に下回っています。調べる場面、意見交換の場面、発表の場面での活用頻度も、大阪府、全校の平均より大きく下回る結果でした。本校では、ICT 活用について、どのような場面で、どのように用いると効果的かの事例について交流を頻繁に行っていますが、まだ実践に至っていない状況です。今後も、短時間でもタブレットに触れる機会を設けていくことを含めて、調べる、考える、まとめる、伝える場面で、タブレットを用いる授業づくりについて取り組んでいきます。

算数に関する設問は、昨年度に引き続き大阪府、全国と比べて低い状況です。特に、「算数が好きか」、「授業はわかるか」、「生活に活用できないか」の設問の回答率は、それぞれ、約 13、約 5、約 13 ポイントずつ低くなっています。それに対して、国語や理科の授業への肯定的な回答は、高い割合でした。本校では、国語の授業改善を中心に取り組んでいますが、その成果が理科にも表れてきました。算数でも、これまで以上に、生活場面を想起させながら、解への見通しをもたせ、みんなで解決していくような授業づくりへの改善をめざしていきます。



４．成果と課題を踏まえた今後の取組みについて

（１）校内研修を柱とした授業力向上

本校では「確かな学力を育む深い学びの創造～『たい』と『あい』があふれる授業をめざして～」というテーマのもと、教職員の授業力向上に努めています。特に国語の授業において研究を進めてきた成果が結果からもみられました。これからも、子どもたちが「考えたい」「話し合いたい」「聞きたい」と思えるような授業づくりを進めていきます。

また、授業を構造化するために、全ての教科において①前時のふりかえりとめあての共有、②自分の考えを書く時間、③ペア、グループ、クラスで話し合う時間、④ふりかえりという４つの段階を意識して、授業を計画しています。

特に算数においては、苦手意識を持つ子どもが多いことから、子どもたちが意欲的に取り組むことができるよう日常生活で出会うような具体的な場面での課題設定ができるように工夫します。場面や状況に応じて、必要な数量やその関係を抑え、図や式などに表したり結果を適切に導いたりできるよう具体物操作したり、ICT を活用したりた授業づくりをします。

（２）全教科における言語活動の充実

記述式の問題の中でも「話すこと・聞くこと」の領域の課題が見られたため、自分の考えや授業の振返りで、字数制限や条件付きで書く活動に取り組む必要があります。各教科の各単元で、目標から授業を設計し、単元に沿った言語活動を設定していきます。そして、それぞれの単元で、レポートやリーフレットを書く、学級全体で討論する、グループで話し合うなど、言語活動を通して学んだことを次の単元に生かしていきます。

（３）タブレット端末の活用

タブレットについては、活用できる場面に偏りがあり、十分な頻度で活用できていない状況です。今後より積極的に活用できるよう Google Classroom やオクリンクを活用して、クラスの意見を素早く集約したり、画面に映し出して共有したりすることによって、一人ひとりの考えがより深まるように活用します。また、理科の実験結果や社会科の調べ学習の際に、写真や動画を示しながら発表したりレポートを作成したりできるようにします。

５．保護者・児童のみなさんへ

＜児童のみなさんへ＞

北小学校のみなさんは、学校でもよいところを認められる経験をたくさんし、自分のよいところもたくさん認めることができています。そして、いじめを許さない気持ちを持ち、人が困っている時は進んで助けることができる人がたくさんいます。これからは是非とも将来の夢や目標を見つけ、失敗を恐れずに難しいことにも挑戦していってください。

学習については、国語・理科の学習にとても意欲的に取り組んでいる様子がみられます。学習の大切さを感じ、将来、社会に出た時に役立つと考えることができています。授業において、めあてに沿ってしっかり考えをもち、ノートに書いたり、友だちと話し合ったりした成果が今回の学力学習状況調査にも出ていました。これからは、調べてみたいことや生活に役立てていく方法などを自分から見つけて、本やタブレットパソコンなどを積極的に活用しながら学習を深めていってほしいと思います。

＜保護者のみなさんへ＞

本校の児童は、決まった時間に起きたり寝たりとリズムよく生活できている子が多くいます。また、携帯やスマートフォン、ゲームの使い方の約束を守ることや、使用時間についても全国の回答より良好な結果であることも分かりました。保護者の皆様が心身ともに健やかでたくましい成長を支援していただいていることも、この調査からみることができました。

学校での読書の時間が全国平均より上回っていますが、家庭で新聞や、本を読む機会が少し少ないようです。おうちの方も一緒にそのような時間を作っていただくことで、学びを生活の中や地域、社会に生かしていこうとする心豊かな人に成長してくれるのではと期待します

学習については国語・算数・理科の教科において大変良好な結果となりましたが、質問紙の回答では、算数に苦手感を持つ児童が他の教科より多くいます。今後、どの教科においても、子どもたちの興味・関心を引き出すような課題を設定し、主体的、対話的な学習の充実を図ります。今後も「心豊かに　夢大きく　一人ひとりが輝く学校」の実現に向け全力で取り組んでまいります。ご支援、ご協力よろしくお願いいたします。